

STAGE+を楽しむ(203)(HP 収載)
—ショルティのハイドン《天地創造》—

1. 始めに

前報(202)に引き続き、STAGE+のショルティのハイドン《天地創造》の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は STAGE+のショルティのハイドン《天地創造》の演奏を選びました。

ショルティが指揮するハイドンのオラトリオ《天地創造》

ヘラクレスザール、ミュンヘン

収録日: 1995年12月15日

70歳の誕生日を目前にしたハイドンによって作曲されたオラトリオ《天地創造》

は、人生肯定的でありながら独創性と新鮮さを備えた、クラシック音楽の歴史における不朽の名作です。本映像はミュンヘンのヘラクレスザールでスタジオ収録されたもので、この時すでに指揮者サー・ゲオルグ・ショルティの長く栄光に満ちたキャリアは終盤に差し掛かっていました。気心の知れたバイエルン放送交響楽団&合唱団、そして厳選された3人のソリストとともに、忘れがたい名演を繰り広げています。細部に至るまで完璧なバランスを実現するショルティの卓越した手腕にもご注目ください。

ソリスト:

ルート・ツィーザク (ソプラノ)、アントン・シャリンガー (バス)、ヘルベルト・リッペルト (テノール)、ラインハルト・ハーゲン (バス)、フリーデマン・ヴィンクル
ホーフアー (チェンバロ)

演奏:

バイエルン放送合唱団、バイエルン放送交響楽団

指揮:

サー・ゲオルグ・ショルティ

曲目:

ヨーゼフ・ハイドン オラトリオ《天地創造》Hob.XXI:2



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

ショルティが晩年にこのような宗教曲を収録しているとは知りませんでした。

もう一つのオラトリオ《四季》はアナログを所有していますが、今回の曲も3部にわたる1時間40分の演奏の大作で、天地創造の展開を描いています。

1995年の収録ですので、ミュンヘンのヘラクレスザールの音もよく映像も鮮明です。ソリストの歌唱は伸び伸びと明晰で、ヘラクレスザールの間接音やチェンバロもしっかり捉えられています。

ショルティはワーグナーを指揮するときのようなエネルギッシュさを抑制し、堅実な指揮を行っています。2部の終章の合唱のもりあがりや、3部の冒頭の3人のフルート奏者の美しい合奏や、ソプラノとバスの2重奏など聴かせどころが多い演奏です。

4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、この大作のヘラクレスザールの演奏の雰囲気味わえました。

以上

